

丹波の豊かな水で遊ぼう

SPLASH!! 丹波!! '19 を開催

8月11日、丹波年輪の里で、一般社団法人丹波青年会議所主催の水遊びイベント「SPLASH!! 丹波!! '19」が開催されました。当日は水鉄砲での打ち合いや、小さなプールを飛び越える障害物競走など、水を使った様々な催し物が行われ、グルメ屋台なども多数出店。市内外から集まった過去最多の1万人が、真夏の水遊びを楽しみました。

本イベントは、豊かな自然や農産物を育む市の「水」を通してふるさとの良さを見直してもらおうと、市創生シティプロモーション支援事業の一つとして開催されました。今年は親子体操などの子育てコーナーも設け、子育て世代に「遊び」と「子育てのしやすさ」もアピールしました。

実行委員長の太田辰弥さんは「今年は、子どもの笑顔を見た子育て世代が笑顔になり、親の笑顔を見た子どもがまた笑顔になるといった『笑顔のサイクル』を作りたいと考えて企画しました。夏の一大イベントになりつつある SPLASH!! 丹波!! を通じて市をアピールし、少しでも人口が増えてほしい」と話しました。



鬼ごっこで逃げる鬼を狙う子どもたち



泡を浴びる参加者たち

強くてやさしい安心社会をめざして 復興5年イベント「和一处」開催

8月18日、ライフピアいちじまで、豪雨災害復興5年イベント「和一处」が開催されました。豪雨災害の発生から5年が経過した今年、被災から復興への歩みを振り返ることが目的です。

基調講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、丹波市豪雨・中越地震・東日本大震災・熊本地震の復興に携わる地域のリーダー4人が、被災の教訓や復興への取り組みについて意見を交換。「被災後、みんなが相手のことを考えて力を合わせたことが今につながっている」などと話し、被災の苦しい記憶だけでなく、復興の中で育まれた地域の団結や助け合いなどについて振り返りました。

豪雨災害の翌年から毎年開催されている「和一处」は、今年でいったん終了します。今後は豪雨災害を忘れず教訓とするため、8月16日の「心つなぐ 防災の日」を中心に、市民一人ひとりが防災意識を高め、より安全で安心な社会をめざしていきます。イベントの最後には、来場者が復興への願いを込めてメッセージを付けた風船800個を空に飛ばしました。



パネルディスカッションで、復興への取り組みについて語る参加者



復興への願いを込めて風船を飛ばす来場者

女性の力で次代の農業者を育成する 「丹波 根っこの会」設立

9月6日、市内の女性農業者21人でつくる「丹波 根っこの会」の設立会が春日住民センターで開催されました。会員同士の情報交換や研修会などを通して、女性農業者のさらなる資質向上や、次代の農業者の育成をめざします。

会長の山本浩子さんは「この会の名前のように根を張り、女性的な発想で地域農業の発展にもつなげていきたい」と意気込みを述べました。



設立会に参加した女性農業者たち

未来の丹波市の姿をえがく まちづくりビジョン（案）の 答申を受けました

8月22日、未来の丹波市のまちの姿について審議する市未来都市創造審議会から「まちづくりビジョン（案）」の答申を受けました。

審議会の角野幸博会長は、「人口が減少する地方都市の課題を整理して、まちづくりの方向性を描いた。20年後を考えたまちづくりの参考にしてほしい」と伝えました。



答申書を市長に手渡す角野会長（中央）と大野亮祐副会長（右）

B&G 全国ジュニア水泳競技大会 優勝・上位入賞の快挙！



メダルを掲げる村岡さん（左）と足立さん

8月17日、東京で行われたB&G全国ジュニア水泳競技大会で、丹波市から出場した村岡紗弥さん（上久下小6年）と足立滯音さん（青垣中2年）が決勝に進出し、村岡さんが50m平泳ぎで初優勝の快挙を成し遂げました。

後に行われた市役所への表敬訪問で、村岡さんは「大会前は週5日練習した。自己新記録は出せなかったけど、優勝できて嬉しい」と語りました。

災害時、FM放送で緊急情報を発信！ FM805と協定を締結



署名した協定書を持つ足立理事長（左）と谷口市長

8月14日、市とコミュニティFM局「805たんば」を運営するNPO法人「たんばコミュニティネットワーク」は、災害時に緊急情報を同局で放送する協定を締結しました。FM放送により、車で移動中の人などにも道路の寸断などの情報を即時に伝えることができます。

同NPOの足立宣孝理事長は「805の原点は災害。非常時には役に立ちたい」と話しました。